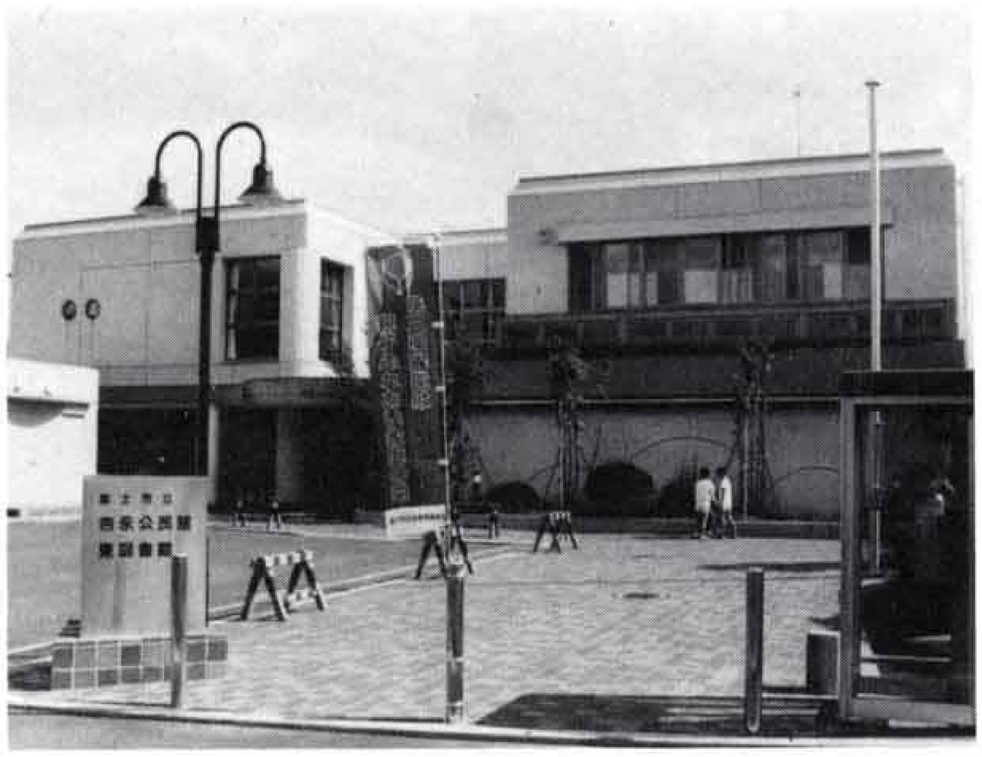
どネットワーク

富士・愛鷹山の自然と清流に恵まれたまち

吉永



△地域活動の拠点吉永公民館

▶人　　口　10,523人
▶世 帯 数　2,947世帯
(昭和62年7月1日現在)
▶面　　積　11.41平方キロメートル

吉永地区は比奈・富士岡を中心に、北に間門・鵜無ヶ淵などの集落が赤淵川沿いに広がる地区です。

比奈は「姫名」ともいわれ、平安時代の書物にその名があります。

また、「竹取物語」のヒロインかぐや姫の生まれたところとして竹取塚もあります。

このような伝説に色どられた比奈地区ですが、現在は大手の製紙工場が並び、住工混在の人口密集地となっています。

東名から北の地域は、畑・茶畑の広がる農村地域ですが、近年山間部に民間の宅地造成がされてきました。

また、愛鷹山西側の内山財産区は、ヒノキの樹林が広がる森林地帯で、勢子辻は林業家の集落です。

地区南端の水田が広がる場所には、東部下水処理場として終末処理施設の建設が進められています。

財産区を含め愛鷹山山頂まで広がる吉永地区は、人口密集地域の生活環境の改善、石井付近の宅地造成の問題など、これから解決すべき問題を残している地域です。

このコーナーでは、公民館単位に各地区の話題や人物を紹介します。

あなたの地区でのちょっとしたこぼれ話、出来事、ご意見などありましたらご連絡ください。10月は須津、11月は元吉原地区です。連絡先…市内永田町1－100 市広報広聴課 ☎51－0123 内線2822、締め切りは毎月15日です。

おじゃましまし

神楽を伝えて四百年

鵜無ヶ渕神楽保存会の皆さん

△若い人の目立つ鵜無ヶ渕神楽保存会の皆さん

日本の伝統芸能「神楽」。伝える人も少なくなってしまった現在、地域一丸となって伝承しているのが「鵜無ヶ渕神楽保存会」の皆さんです。今回は、練習場の鵜無ヶ渕公民館におじゃましました。

鵜無ヶ渕神楽は約四百年前から地元に伝わっています。神楽の奏者は鵜無ヶ渕の住民に限られ、親子三代にわたって継承している人もあります。

鵜無ヶ渕神楽は「下(さが)り葉」「幣の舞」「剣の舞」「狂の舞」の四曲で、太鼓・横笛・舞が三位一体となっておりなす民俗芸能です。

かつて、神楽の中心は青年でしたが、青年団活動の低下から存続が危なくなり、昭和三十五年に保存会が結成されました。

現在、会員は二十五人。二十代から七十代まで幅広いメンバーで構成されています。

会社員がほとんどで、ふだんの練習は月に数回、夜二・三時間行われます。これから十月十六日のお日待ちに向けて練習に力が入るときです。練習の中心は、この道四十年以上という三人の師匠。三人の目・耳・口からじかに伝わります。

代表者で師匠の一人でもある鈴木与市さん（六十二歳）は「鵜無ヶ渕神楽の特徴は、女の神楽で優しく、おとなしい点です。練習を熱心にやって五年ぐらいたてば一人前かな」と語ってくれました。